

煎茶席の意匠と思想



『青灣茶會圖録』（田能村直入など、文久3、国書データベース）

2025年1月25日（土）13:00～17:00

ハイブリッド開催：奈良カレッジズ交流テラス（奈良女子大学キャンパスの北東）＋ ZOOM

参加費：無料

発表1 矢ヶ崎善太郎（大阪電気通信大学）

煎茶席の思想

発表2 櫃本聡子（博物館明治村）

煎茶席の意匠

講評： 桐浴邦夫（京都建築専門学校）



奈良カレッジズ交流テラス



近鉄奈良駅

一般に知られている茶室は、粉末状の抹茶を飲む「侘茶」の茶室である。閉鎖的な小間で炉が切られるため、茶室であることが明確である。対して、現代の緑茶と同様に茶葉を煎じて飲む煎茶のための「煎茶席」の存在が指摘され、近年研究が行われている。閉鎖的な侘茶の茶室と異なり、煎茶席は開放的で、自然に包まれながら隠遁して閑雅な生活を送ろうとする文人趣味等、興味深い思想も見え隠れする。このような煎茶席が民家にも導入されるが、侘茶に必ずある「炉」がないため、煎茶席がどうかを見分けるのが困難である。民家の中の煎茶席を、その特徴に気づかず、侘茶の茶席もしくは座敷と判断されることもあった。今回の研究会は、意匠と思想の双方から煎茶席を読み解く研究会である。

参加をご希望の方はQRコードかリンクより事前登録をお願いいたします。

<https://forms.gle/PKKH4qYFQwap4Awu9>

主催：日本建築学会近畿支部民家部会
協賛：松井角平記念財団

お問合せ：坂井禎介（奈良女子大学）

<https://x.gd/wo0Ak>